

■第2回武蔵野市緑化推進審議会 議事要旨

○日時：令和7年10月9日(木) 18:30 ~ 20:30

○場所：武蔵野総合体育館3階 大会議室

○武蔵野市緑化推進審議会 出席者8名、欠席者1名

小田委員長、竹内副委員長、中野委員、内山委員、平湯委員、元谷委員、矢嶋委員、関口委員
阿部委員（欠席）

○傍聴者

3名

○事務局

- ・環境部 緑のまち推進課
朝生参事、松崎参事、(緑化係)秦係長、石塚、田中、森、(公園係)中川係長、吉川、早川
- ・株式会社総合設計研究所：大瀧、石井、新井
- ・C E S. 緑研究所 手塚

○次第と主な議論内容

1 開会挨拶

2 報告事項

- ・緑化市民会議の中間報告について
- ・庁内検討委員会について

3 議事

- (1) 現行計画の評価について
- (2) 計画改定の論点について
- (3) 改定後の将来像について

4 その他

事務局より次回の審議会の日程及び検討内容の説明を行った。

5 閉会の挨拶

議事(3)改定後の将来像についてはフォームで意見を聞くとともに次回の審議会で議論することになった。

●主な意見のまとめ

【緑化市民会議の中間報告について】

参加者：延べ80名弱（キックオフ34名+WS延べ45名）、キックオフ4/26（旧赤星鉄馬邸）、WS①5/28（むさしのエコreゾート）、WS②6/1（武蔵野商工会議所）、WS③6/6（武蔵野プレイス）を行ったことを報告

【庁内検討委員会について】

15課の課長級で構成。維持管理の視点強化が必要。若年層や関心がない層に上手にアプローチすることが必要ななどの意見をいただいている点を報告。

【現行計画の評価について】

資料3、参考資料3を説明。

【現行計画の評価について：借地公園】

- ・借地公園はどういう意味があるのか。（小田）
- ・土地を借りて公園にしており、所有権の変更等をきっかけに恒久化できるものもあれば廃止されるものもある。（事務局）

【現行計画の評価について：生物多様性】

- ・生物多様性を考えるうえで、緑の管理をどうするかは非常に難しい。（関口）
- ・現行計画の中では生物多様性があまり強調されていなかった。改定から今に至るまで世界的にも重要視されている。（竹内）
- ・現行計画では、緑の役割の一つとして生物多様性について記載している。（事務局）

【現行計画の評価について：ボランティアの育成】

- ・ボランティア団体の活動で良好な緑地が保たれている。（小田）
- ・新しく設立する団体もあれば高齢化などにより解散する団体もあるため、団体数は横ばいとなっている。（事務局）
- ・若い世代をどう育てていくかが課題。（小田）

【現行計画の評価について：目標に関して】

- ・現行計画の評価において、目標だけが目立つのではなく、”この5年間でどう変わったか”が強調されると良い。（竹内）
- ・ある程度数値で定量的に把握をしているが、現行計画の当初にKPIがあったのか。（内山）
- ・例えば、緑視率は具体的な目標ではなく地点の数を増やしていくとしている。進捗は、中間まとめで一度整理をしている。（事務局）

【計画改定の論点について：樹木に関して】

- ・越境や繁茂など樹木に関する苦情が多く、樹木が大きくなっていることの課題が大きい。（事務局）
- ・緑化行政が早い時期から行われていたゆえに、深刻な状況になっている。（小田）

【計画改定の論点について：老木化する樹木】

- ・市内の街路樹は古木化して、特に桜は不朽や腐れがだいぶ進行しているように見受けられる。（中野）
- ・危険な樹木は伐採して入れ替え、更新する必要があるが、まち全体の緑が減らないようにすべき。（中野）
- ・一時的には緑が減少したように見えるが、安全面や今後のメンテナンスがしやすくなる。（中野）
- ・緑被率とは別に樹幹被覆率という指標もある中で、バランスをどうするか難しいと感じている。（関口）
- ・転換期ではあるが、緑の量が不足している地域もある。これだけ夏の酷暑が深刻になっているの

で、緑被率の数値目標のキャップを取るのは、危険である。大木のシンボルとなる樹木等残すべきものは頑張って残す、更新する場所は更新するといったメリハリが必要。欲張った目標で良いと考える。(竹内)

- ・樹木は樹種ごとに特性があり、特性を理解したうえで、人の手でどう管理していくかを設定するべき。維持管理コストもかかることを確認しながら、バランスを取る必要がある。(中野)
- ・地域特性や歴史性も踏まえどんな樹種を植え替えていくか判断していけたら良いのではないか。(小田)
- ・樹木を困りごととして扱うのではなく、共存していく道があっても良いのではないか。(平湯)

【計画改定の論点について：商業地の緑】

- ・特に吉祥寺は、地域と共生していく、地域の方に共感してもらうことを重視する空気感がある。地域の方がいろいろな商業施設を応援し、自分事のように考えていることを感じている。(内山)
- ・緑を増やすと商業施設として支持されることは定性的に理解していても、定量化できないことが緑化の取組みに踏み出せない状況としてある。(内山)
- ・商店会には、園芸部があり低木やお花を一生懸命整備しているところもある。商業地でも樹木とまではいかなくとも多少なりともご協力できているのではないかと思っている。そのような取組みをどうやって増やしていくかだと思う。(内山)
- ・緑化をコストと取るかそうでないとするか、今のところコストを取りがちなので、払拭できる何かがあると協力しやすい。(内山)
- ・商業エリア内にある吉祥寺西公園では不法駐輪が多く、問題となっている。市が看板を設置すると、はじめは減るがむしろ増えてしまうような状況もある。実施したことができているのかチェック機能が必要であると感じる。(矢嶋)
- ・商店街周辺の公園に関してどこまで商店会が関与していいか分からぬ部分がある。市がやることと商店会がやるところの明確な決まりがあって連携が取れる計画があると取り組みやすい。(矢嶋)
- ・吉祥寺西公園の緑のある光景や中道通り商店街の立地が強みになっている。吉祥寺は道路に面した低層部で商売されている方が多く、来街者もその雰囲気を楽しめているので、そのような緑が増える施設があると良い。吉祥寺の緑があるシチュエーションを来街者が良いと思い、商売が入ってくる、そうすると新しい緑の管理の仕方やネットワークが築けていけそうである。(内山)
- ・緑の取組みにより、借景としてお店も利益を得て、お店はその借景を守るといった構造になると良い。(内山)
- ・そのために、役割分担が明確だと取り組みやすい。現状では、市と連携して取り組むにはどのようにすればよいかわからない。(内山)
- ・産業振興とうまく連携・協力できると良い。(小田)
- ・自然共生サイトは、恵比寿のガーデンプレイスや六本木ミッドタウンなどの一見おしゃれで自然と共生しているなそうなところも登録されている。そういう事例の視察を審議会でやってみてはどうか。(平湯)
- ・武蔵野市は歩道が狭く緑を設置するのは難しいものの、ハンギングバスケットやプランターなど、管理の工夫も検討する必要があるが、設置費が高くてもその後の管理の負担が少ないものもあるので検討してもよいと思う。プランターは市で、お花の管理はお店で、といった役割分担も考え

られる。(竹内)

- ・府内検討委員会の構成には産業振興課もいるので、横の連携も図りながら検討したい。(事務局)

【計画改定の論点について：その他】

- ・計画においても本当に計画したことができているのかチェック機能があると良いのでは。(矢嶋)
- ・ボランティア団体には意欲がある方が多いので、団体を超えて連携を図っていくことができるといい。(元谷)
- ・論点右下の「みんなで楽しみ・育み・支える」だけ矢印の方向が違う。これは、横の連携や市民と緑との関わりという部分が全体にかかるという意図である。そのために情報発信は大前提となる。(元谷)
- ・生物多様性は人類存続の基盤とされ、その上に社会や経済が成立する。子どものうちから命の循環を感じることができ、自然との共生が図られるという情報発信ができると良い。(平湯)
- ・新しい形での学校に、拠点となる学校林のような緑の創出ができると良い。子どもたちが四季折々を感じ、大人も一緒になって落葉拾いをするといったことで、持続可能な開発と学びがつながると良い。(小田)
- ・樹林地の落ち葉から堆肥を作って、農業公園の畑にすき込んで、それで野菜を作るというような循環がすでにある。この地域で蓄まってきた労働や暮らしがあったことが伝わり、これを次世代に伝えられたら良いと思う。(元谷)
- ・論点⑧-①「自分ごととして考え」というところは、やりたい人が市民の方でもいっぱいあるし、もうすでに取り組まれている方もかなりいるので、すでに取り組まれている人を応援したり、もっとその輪を広げるといった表現の方が良い。自分事というよりは、「みんなでやりたいことをどんどんやっていこう」というスタンスで「楽しむ」を書けると良いと思う。(竹内)
- ・生物多様性は世界的にも取り組まなければならない課題であるが、グリーンインフラや流域治水のキーワードが入っていないので、樹木も大事だが、水が浸み込む地べたの重要性にも触れる良い。(竹内)
- ・緑の基本計画 2019 年の基本理念では「緑は市民の共有財産」とされていた。次からは「市民の共有財産」であることに加えて、「みんなで育んで、次世代に渡していこう」のような基本理念の更新になると良い。(竹内)

●欠席委員からの意見

【計画改定の論点について：フレーム】

- ・何を優先したら効率的効果的なのか、重点地区的な発想や短期、中期、長期という実施期間を決めるようなメリハリがあると良い。そのように優先度が高い施策を重点施策として迅速に取組むことで、市民にこういうまちはよいとの認識が生まれ、自ずと興味関心が湧くようになる。(阿部)
- ・現行計画より前の計画では重点地域施策があった。3駅圏ごとのものであったが用途地域のようなものも考えられる。緑の取り組みの重点施策や、実施期間を入れることは、予算化のメリットもあるため検討してみる。(事務局)

【計画改定の論点について：緑の取り組み】

- ・樹木の更新は市民にとっては変化がわかりにくく、地味な取り組みに感じるので、目に留めても

らえるように工夫したい。 (阿部)

- ・落ち葉の資源化等の楽しめる取り組みも打ち出して、明るい発信もしていくことが大切。日常のなかでいかに市民の方を巻き込んでいくか、緑に関して発信することも大事である。 (阿部)
- ・二俣尾の森林事業ももっとハードルを下げて気軽に楽しめるといききっかけになる。また、友好都市など遠方の場所で自然に触れる活動があってもよいのではないか (阿部)
- ・「身边に緑を感じることで、日常がワンランク上がる」取組みがあると良い。 (阿部)

以上